

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																								
大阪ハイテクノロジー専門 門学校	昭和62年4月1日	橋本 勝信	〒532-0003 大阪市淀川区宮原1-2-43 (電話) 06-6392-8119																								
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																								
学校法人 大阪滋慶学園	昭和62年4月1日	浮舟 邦彦	〒532-0003 大阪市淀川区宮原1-2-43 (電話) 06-6150-1301																								
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																							
医療	医療専門課程	柔道整復スポーツ学科	平成22年文部科学省告示第 152号	-																							
学科の目的	骨折・脱臼・打撲・捻挫などの外傷疾患に対して施術を行う柔道整復師に必要な知識と技術を学ぶとともに、スポーツ分野における知識・技術・資格を習得して、医療・スポーツ・健康・福祉分野で活躍できる実践力や臨床力を持った人材を育成することを目的とする。																										
認定年月日	平成26年 3月31日																										
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単 位数	講義	演習	実習	実験	実技																				
3	昼間	3750	2370	240	300	0	840																				
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内数)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																						
90人	90人	0人	7人	32人	39人																						
学期制度	■前期:4月1日~9月30日 ■後期:10月1日~3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 試験の素点、小テスト、実習実技、 レポート、出席状況等を総合的に評価する。																							
長期休み	■学年始:4月1日 ■夏季:8月7日~9月11日 ■冬季:12月28日~1月5日 ■学年末:2月26日~3月31日		卒業・進級 条件	所定の科目のすべてに合格し、 かつ出席率が67%以上であること。																							
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 担任による日々の出席管理後、個別に面談を行い、保護者とも連携している。面談より 聴取した弱科目の課題・個別学習指導などの学習支援を実施。長期欠席者につ いては、保護者を含め対応を都度電話等で確認を行っており、必要があれば自宅 訪問も実施している。		課外活動	■課外活動の種類 (例)学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 バスケットボール部 野球部 サッカー部 バレーボール部 校友会・学園祭実行委員会・大阪マラソンクリーンUP作戦 ■サークル活動: 有																							
就職等の 状況※2	■主な就職先、業界等(令和3年度卒業生) ムーブアクション株式会社、株式会社マーサメディカル、株式会社HSコーポレーシ ョン、医療法人アレックス、スマイルアンドサンキュー株式会社、よしかクリニック ■就職指導内容 個別面談にて就職希望聴取後、キャリアセンターと担任で就職個別面談を 実施し、施設見学等を実施している。また就職フェアにて施設紹介も併せて 実施している。面接練習会も実施している。 ■卒業生数 : 31 人 ■就職希望者数 : 30 人 ■就職者数 : 30 人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 96.8 % ■その他 ・進学者数: 0人 (令和 3 年度卒業者に関する 令和4年5月1日 時点の情報)		主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和3年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>柔道整復師</td> <td>②</td> <td>26人</td> <td>17人</td> </tr> <tr> <td>日本体育協会公認 アスレチックトレーナー</td> <td>②</td> <td>11人</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>日本トレーニング指導者協会公認ト レーニング指導員</td> <td>③</td> <td>25名</td> <td>17名</td> </tr> <tr> <td>メディカル・フィットネス協会 スチューデントトレーナー中級</td> <td>③</td> <td>33名</td> <td>32名</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①~③のいずれかに該当するか 記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	柔道整復師	②	26人	17人	日本体育協会公認 アスレチックトレーナー	②	11人	2人	日本トレーニング指導者協会公認ト レーニング指導員	③	25名	17名	メディカル・フィットネス協会 スチューデントトレーナー中級	③	33名	32名
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																								
柔道整復師	②	26人	17人																								
日本体育協会公認 アスレチックトレーナー	②	11人	2人																								
日本トレーニング指導者協会公認ト レーニング指導員	③	25名	17名																								
メディカル・フィットネス協会 スチューデントトレーナー中級	③	33名	32名																								
中途退学 の現状	■中途退学者 4名 令和3年4月1日時点において、在学者97名(令和3年4月1日入学者を含む) 令和4年3月31日時点において、在学者93名(令和4年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 (例)学校生活への不適合・経済的問題・進路変更等 進路変更、経済的理由 ■中退防止・中退者支援のための取組 (例)カウンセリング・再入学・転科の実施等 入学前教育(プレスクール、入学前課題)、学生サポートアンケート実施、個人面談、スコラ手帳導入、保護者懇談会開催時の保護者個人面談実施、進路変更委員会設 置、カウンセリング講習会実施、スチューデント・サービス・センター(SSC)の設置(ヘルス・メンタルサポート制度) 他		■中退率 4.1 %																								
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 無 ※有の場合、制度内容を記入 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象																										
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 有 評価団体: 私立専門学校等評価研究機構 評価受審年月日: 平成24年3月31日 評価団体: 一般社団法人専門職高等教育質保証機構 評価受審年月日: 平成31年2月15日																										
当該学科の ホームページ URL	http://www.osaka-hightech.ac.jp/common/doc/school/approval/iyu_sp.pdf																										

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

- 「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について
 - 「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。
 - 「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。
 - 「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。
- 「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年度中に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。
- 「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について
 - 「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。
 - 「就職」とは給料、賞金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。
 - 上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

柔道整復師は身近な医療従事者として、骨折・捻挫・脱臼などの外傷に対して手技を活用して施術を行うことができる。患者の状況は個々で異なるため、手技の習得には業界で実践している人々から直接教授を受けることが重要である。また、スポーツ・健康分野は常に社会やスポーツ現場のニーズを把握し、業界の最新情報を収集して、専門学校教育に反映させることが重要である。さらに対人援助職として必要なコミュニケーション能力などの社会人基礎力についても、業界からの意見を反映して教育指導にあたらなければならない。業界等の意見を計画的に収集する手段の一つとして、教育課程編成委員会を設置する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会は理事会直轄の独立した委員会組織であり、学内の教務部や事務部とは別に運営される組織である。教育課程編成委員会の位置付けについては、「学校法人大阪滋慶学園 教務組織規則」「学校法人大阪滋慶学園 教育課程編成委員会規定」および組織図に明記されている。教育課程編成委員会の意見は学校内で十分に検討した上で、学科のカリキュラムや教育指導内容に反映する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和4年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
上田 忠佳	DSファーマバイオメディカル株式会社	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	③
永井 慎	NPO法人 日本バイオ技術教育学会 岐阜医療科学大学 保健科学部 臨床検査学科	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	①
赤澤 夏郎	株式会社プレンプロジェク	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	①
鈴木 謙三	マテック八尾(八尾経営・技術交流会)	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	③
松浦 亮太	株式会社 ザ・ビッグスポーツ	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	①
清田 源	株式会社 パーフェクトトレーナーズ	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	③
増井 英明	公益社団法人 大阪府柔道整復師会	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	①
葭矢 千佳江	増田整形外科クリニック	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	③
尾崎 卓宏	ホリスティックメディカルジャパン	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	③
志和 輝彦	有限会社 J-RADIANCE かがやき整骨院	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	③
丹波 徹二	公益社団法人 大阪府鍼灸師会	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	①
木村 辰典	木村鍼灸院	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	③
杉浦 正人	関西医科大学香里病院	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	③
宮本 哲豪	一般社団法人 大阪府臨床工学技士会理事 在日本南プレスビテリアンミッション淀川キリスト	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	①
小嶋 宏典	社会医療法人 祐生会 みどりヶ丘病院	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	③
徳永 政敬	一般社団法人 兵庫県臨床工学技士会	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	①
山本 鋭二郎	社会福祉法人 恩賜財団大阪府済生会 大阪府済生会野江病院	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	③
藤田 秀樹	公益社団法人 大阪府診療放射線技師会	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	①
石田 貴大	株式会社 互惠会 大阪回生病院	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	③
福西 康修	公益社団法人 日本放射線技術学会 近畿支部	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	①

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

教育課程編成委員会は年2回の実施

(開催日時)

第1回 令和3年7月26日実施 18:30～20:30

第2回 令和4年1月18日実施 18:30～20:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

教育課程編成委員会での議事内容、あるいは各委員からの助言、および業界等への調査結果などは、学科の教育課程において科目内容や授業方法の改善、カリキュラムの体系化などに活用するものとする。具体的な例として、医療分野におけるコンプライアンスの重要性が指摘され、国民皆保険制度における柔道整復師の役割や責任について業界担当者から指導を受ける機会を提供している。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

学内では臨床的かつ現場的な知識・技術の習得を目指し、臨床・スポーツ現場にはそれを実践できる場を求めている。企業等の選定はそれらの目的に合うことが第一であり、さらに担当のスポーツトレーナーが教育的概念を持っていることを条件としており、担当者の直接的指導下で実習ができる所としている。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

スポーツトレーナー・柔道整復師が活躍している実習先で、競技特性に合わせた技術やスキルを学ぶ。また、現場での体験を通して、社会人基礎力も含めた総合力を身につける。企業担当者には最先端の知識や技術を教えていただいている。また、現場において専任教員が担当として指導する場面もあり、学生とともに帯同して現場に即した知識・技術を教えている。学内の実習では実習先企業等からのオリエンテーションなどを実施する場合もある。

(3) 具体的な連携の例

科目名	科目概要	連携企業等
トレーナー実習	臨床・スポーツ現場での見学や実習を行い、卒業後必要となる知識・技術について理解し、それらを向上させることを目的とする。具体的な目標は以下の5点である。①「検査・測定の基本知識」を学び、基本的な技術を習得する。②スポーツ現場での対応スキルを向上させるため柔道整復師・トレーナーとしての基礎を学ぶ。③運動時に発生する障害や外傷を考え、予防方法やリハビリ技術を学ぶ。④現場での総合力を身につけるため、トータルにサポートできる技術や知識を学ぶ。⑤対人援助職として必要な態度やスキルを学ぶ。これらの多くの部分を企業等と連携して運営している。	桃山学院大学, アスリート鍼灸整骨院, 武庫荘総合高校, 北摂三田高校

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

柔道整復師は健康医療を担う立場にあり、常に世の中のニーズや行政の動向に俊敏に反応しなければならないため、教員自身が進んで研鑽する姿勢が必要である。また、学生の状況(学力、意欲等)も多様化しているため、授業の方法などについても新たな取組みが必要である。このようなニーズを踏まえて、専門分野に関しては職能団体等が行う研修や学会に参加することを奨励し、併せて学内ではFD活動など授業方法の改善に関する研修を実施している。学校内および学園内で実施する研修は原則として参加が義務付けられており、学外で実施される研修については、教員の代表者が出席してその内容について会議等で報告することとなっている。研修に於いては、学校法人 大阪滋慶学園 教員研修規定に定められている。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:「第13回大阪学術大会」公益社団法人大阪府柔道整復師会

期間: 令和3年10月16日(土)・17日(日)

内容は柔道整復・接骨医学・理論説明が可能な施術法による症例や統計に関するもの

の発表および柔道整復師業界に関する講演を聴講。また、ワークショップでは超音波エコーを用いた鑑別法や臨床的施術方法の発表講演に参加。学生発表において1演題発表。演題名「ストレッチ時間が跳躍力に及ぼす影響」を発表した。

研修名:「認定実技審査委員資格取得講習会」公益社団法人柔道整復研修試験財団

期間: 令和4年4月24日(土)・30日(土)5月1日(日)各日オンライン開催

認定実技審査員対象。令和4年度認定実技審査内容に関する研修を行った。

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:「第63回教員研修会」公益社団法人全国柔道整復学校協会

期間: 令和3年11月27日(土)・28日(日)

柔道整復師専科教員対象。「柔道整復が社会に果たす役割」をテーマに柔道整復師としての地域包括ケアに対してのアプローチ内容や、コロナ禍においての教育ツールの活用方法の具体例や柔道整復師としての現状課題についての内容。学校協会と各学校との連携を強化し、教育の質の向上においての研修となった。

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:「第14回大阪学術大会」公益社団法人大阪府柔道整復師会

期間: 令和4年10月1日(土)・2日(日)

研修名:「第45回近畿学術大会・京都大会」公益社団法人日本柔道整復師会

期間: 令和4年10月16日(日)オンライン開催

公益社団法人日本柔道整復師会主催の学術大会の研究発表等を受講し、意見交換を行なう。また、セミナーに参加し、関連業界で活躍する柔道整復師や医療・スポーツ関係者との情報共有を行う予定である。

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:「第64回教員研修会」公益社団法人柔道整復学校協会

期間: 令和4年9月18日(日)・19日(月・祝)2日間開催予定。

テーマ:「柔道整復師が社会に果たす役割」

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校の諸活動においてその方針と評価結果を公表することは、開かれた学校として当然の責務であり、また学校外の方々からフィードバックをいただくことは学校運営の改善につながることもある。
 本校では「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づき、毎年、自己点検・自己評価を実施する。その結果について学校関係者評価委員会において説明を行い、学校関係者評価委員より評価をいただいている。学校関係者評価委員会には、学校長や教務部長などとともに、学校関係者の代表として学生の保護者、卒業生、高等学校、地域、業界からが委員として参画している。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	理念・目的・育成人材像、学校の特色、学校の将来構想
(2) 学校運営	運営方針、事業計画、運営組織、人事制度、意思決定システム、情報システム
(3) 教育活動	字科の教育目標、教育到達レベル、カリキュラムの体系化と科目配置、キャリア教育、授業評価、教員の確保、教員研修、成績評価基準、資格取得指導
(4) 学修成果	就職率、資格取得率、退学率、学生・卒業生の社会的活躍
(5) 学生支援	就職支援、学生相談、経済面支援、健康管理体制、課外活動、生活環境支援、保護者連携、卒業生支援
(6) 教育環境	施設・設備、学外実習、防災体制
(7) 学生の受入れ募集	募集活動、教育成果の開示、入学選考、学納金
(8) 財務	財務基盤、予算・収支計画、会計監査、財務情報公開
(9) 法令等の遵守	法令遵守、個人情報保護、自己点検・自己評価とその公開
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献活動、ボランティア活動
(11) 国際交流	国際交流の取組み

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会での議事内容、および学校関係者評価委員より得られた意見等は速やかに学内で討議を行い、必要に応じて具体的な改善を図る予定である。現状は退学率・資格合格率改善を目標に月1回教員全員参加の会議を行い、意見交換・事例発表等行っている。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和4年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
松浦 和代	保護者代表	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	保護者代表
谷本 みゆき	保護者代表	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	保護者代表
田中 幸恵	近隣関係者(北中島社会福祉協議会 会長)	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	地域代表
釜本 浩明	精華高等学校	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	高等学校
胡本 晃敏	生命工学技術科卒業生	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	卒業生代表
木村 政義	臨床工学技士科卒業生 兵庫医科大学病院	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	卒業生代表
小西 正和	ナカライテスク株式会社	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	企業等委員
坂本 俊雄	一般社団法人 i-RooBO Network Forum	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	企業等委員
臼井 達也	学校法人 大阪成蹊大学	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	企業等委員
尾藤 何時夢	公益社団法人 和歌山県柔道整復師会	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	企業等委員
奥本 憲司	公益社団法人 大阪府鍼灸師会(奥本鍼灸院)	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	企業等委員
山本 桂	一般社団法人 大阪府臨床工学技士会(医療法人 蒼龍会 井上病院)	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	企業等委員
山口 道弘	地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪はびきの医療センター	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

自己点検・自己評価結果等、学校運営や教育活動に関連する情報については、積極的に公開して広く社会に対する説明責任を果たすとともに、公正で透明性の高い運営を推進し、教育活動の改善や社会からの信頼の獲得に資することを基本方針とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	建学の理念、大阪滋慶学園について、学校の沿革
(2)各学科等の教育	教育システムと教育スケジュール、学科の教育目標、教育課程、学科紹介、学年暦
(3)教職員	学校長挨拶、教員数
(4)キャリア教育・実践的職業教育	学外実習、学外研修の手引き、特別講義・業界講演、海外研修、卒業研究・課題研究、就職フェア、生涯教育システム
(5)様々な教育活動・教育環境	入学前教育、資格サポート、就職サポート、施設・環境
(6)学生の生活支援	学校生活サポート、Work & Study、クラブ活動・学生寮、保護者説明会
(7)学生納付金・修学支援	学費一覧、学費サポート
(8)学校の財務	法人財務状況
(9)学校評価	自己点検・自己評価と学校関係者評価、第三者評価
(10)国際連携の状況	国際交流
(11)その他	社会貢献・地域貢献、高専連携、ボランティア活動

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

URL:http://www.osaka-hightech.ac.jp/common/doc/school/approval/jyu_sp.pdf

授業科目等の概要

医療専門課程 柔道整復スポーツ学科 令和4年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			健康管理学Ⅰ	健康管理・健康増進を目的とし、その基礎的方法を学ぶ。	1前	30	2	○		△	○				○
○			健康管理学Ⅱ	健康管理・健康増進を目的とし、その応用的方法を学ぶ。	1後	30	2	○		△	○				○
○			心理学Ⅰ	心理学の基礎理論を学ぶ。	2前	30	2	○			○				○
○			心理学Ⅱ	心理学の応用理論を学ぶ。	2後	30	2	○			○				○
○			栄養学Ⅰ	栄養学を学び、栄養指導のあり方を学ぶ。	1前	30	2	○			○				○
○			栄養学Ⅱ	過剰摂取や欠乏症など栄養に関する諸問題を学び、栄養指導の応用を学ぶ。	1後	30	2	○			○				○

○			情報科学	ワード・エクセル・パワーポイントを中心にPCの使い方を学ぶ。	2 前	30	2	○	△		○				○
○			生物学・生化学	生物学・生化学の総合的な基礎的知識を学ぶ。	1 前	30	2	○			○				○
○			解剖学Ⅰ	解剖学の総論・人体の脈管系・消化器系・内分泌系を学ぶ。	1 前	60	4	○			○				○
○			解剖学Ⅱ	人体の形態と構造を理解し、骨・筋を中心に学ぶ。	1 前	45	3	○			○			○	○
○			解剖学Ⅲ	人体の泌尿器系・生殖器系・神経系・感覚器・体表解剖を学ぶ。	1 後	60	4	○			○				○
○			生理学Ⅰ	細胞・組織・器官系の機能統合を学ぶ。	1 前	60	4	○			○				○
○			生理学Ⅱ	人体の生命維持の基本的機能を学ぶ。	1 後	75	5	○			○				○
○			運動学Ⅰ	ヒトの身体運動を科学的・解剖学的に学ぶ。	2 前	30	2	○			○				○

○			運動学Ⅱ	ヒトの歩行運動や姿勢について学ぶ。	2 後	30	2	○			○			○
○			高齢者の生理的特徴と変化	加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解する。	3 前	15	1	○			○			○
○			競技者の生理的特徴と変化	競技者の生理的特徴を理解し、好発する疾病および外傷の特徴を学ぶ。	3 前	15	1	○			○			○
○			病理学Ⅰ	疾病の形態・機能変化、疾病の鑑別の基本原理を学ぶ。	2 前	30	2	○			○			○
○			病理学Ⅱ	病的変化を理解し、正常組織との違いを学ぶ。	2 後	30	2	○			○			○
○			一般臨床医学Ⅰ	内科疾患を中心に、主要な疾患の診断学について学ぶ。	2 前	30	2	○			○			○
○			一般臨床医学Ⅱ	内科疾患を中心に、主要な疾患の機序、特徴、検査法について学ぶ。	2 後	30	2	○			○			○
○			衛生学・公衆衛生学Ⅰ	疾病を未然に防ぎ、健康を維持・増進することを学ぶ。	2 前	30	2	○			○			○

○			衛生学・公衆衛生学Ⅱ	自然科学的な研究方法論である疫学の考え方、実践活動としての健康サービスを学ぶ。	2 後	30	2	○			○			○
○			整形外科学	骨・筋・関節・神経・病変について症状・検査方法・診断を学ぶ。	3 前	30	2	○			○			○
○			外科学	外科疾患を中心に、主要な疾患の診断や治療について学ぶ。	3 前	30	2	○			○			○
○			リハビリテーション医学	症状の悪化や障害の予後に対して、機能回復・社会復帰に向けての技術を学ぶ。	3 前	30	2	○			○			○
○			柔道整復術の適応	医療制度の概要、柔道整復術の適応疾患について学ぶ。	3 後	30	2	○			○			○
○			医学史	医学の歴史を理解し、現代医療を考える。	3 後	30	2	○			○			○
○			関係法規	柔道整復師法を中心に医療関係法規を学ぶ。	3 前	30	2	○			○			○
○			柔道Ⅰ	日本古来の武術である「柔道」を通じ、基本的な礼儀作法・技を学ぶ。	2 前	30	1	△			○	○		○

○			柔道Ⅱ	日本古来の武術である「柔道」を通じ、応用的な技を学ぶ。	2後	30	1			○	○		○		
○			柔道Ⅲ	投の形（手技・腰技・足技）を習得し認定実技審査に臨む。	3前	30	1			○	○		○		
○			職業倫理	一般的な職業倫理の理解から柔道整復師に求められる職業倫理を学ぶ。	1前	30	2	○	△		○		○		
○			社会保障制度	日本の社会保障制度がどのように運営されているのか、その仕組みを理解する。	2後	15	1	○			○		○		
○			基礎柔道整復学・総論Ⅰ	骨組織の損傷と整復法・固定法の基礎を学習する。	1前	30	2	○			○		○		
○			基礎柔道整復学・総論Ⅱ	柔道整復師の沿革を知り、各組織の損傷についての基礎を学習する。	1前	30	2	○			○		○		
○			基礎柔道整復学・総論Ⅲ	柔道整復学を学ぶうえで必要となる関節運動や可動域と、脱臼の総論を学習する。	1前	30	2	○			○		○		
○			基礎柔道整復学・各論Ⅰ	上肢の骨折について整復法・固定法を学ぶ。	1後	30	2	○			○		○		

○			基礎柔道整復学・各論Ⅱ	下肢の骨折について整復法・固定法を学ぶ。	1 後	30	2	○			○		○		
○			基礎柔道整復学・各論Ⅲ	上肢・下肢の脱臼について整復法・固定法を学ぶ。	1 後	30	2	○			○		○		
○			基礎柔道整復学・概論Ⅰ	上肢の軟部組織損傷について学ぶ。	1 前	30	2	○	△		○		○		
○			基礎柔道整復学・概論Ⅱ	下肢の軟部組織損傷について学ぶ。	1 後	30	2	○	△		○		○		
○			基礎柔道整復学・概論Ⅲ	上肢骨折の概要、整復法、固定法、後療法について学ぶ。	2 前	60	4	○	△		○		○		
○			基礎柔道整復学・概論Ⅳ	下肢骨折の概要、整復法、固定法、後療法について学ぶ。	2 後	60	4	○	△		○		○		
○			基礎柔道整復学・概論Ⅴ	体幹の骨折、脱臼について学ぶ。	3 前	60	4	○	△		○		○		
○			基礎柔道整復学・概論Ⅵ	軟部組織損傷について総合的に学ぶ。	3 後	60	4	○	△		○		○		

○			外傷保存療法の経過及び治癒の判定	外傷保存療法の経過および治癒の判定について理解を深める。	2後	15	1	○	△		○		○				
○			臨床柔道整復学各論Ⅰ	臨床に基づいた上肢の骨折、脱臼について学ぶ。	3前	60	4	○			○		○				
○			臨床柔道整復学各論Ⅱ	臨床に基づいた下肢の骨折、脱臼について学ぶ。	3前	60	4	○			○		○				
○			臨床柔道整復学各論Ⅲ	臨床に基づいた上肢の骨折、脱臼を総合的に学ぶ。	3後	60	4	○			○		○				
○			臨床柔道整復学各論Ⅳ	臨床に基づいた上肢の骨折、脱臼を総合的に学ぶ。	3後	60	4	○			○		○				
○			臨床柔道整復学・総合演習	「卒業判定試験」を実施し、学力向上に努める。	3後	90	3			○		○		○			
○			臨床柔道整復学・物理療法	各種物理療法の原理、方法、適応を理解し、臨床の実際を学ぶ。	1前	15	1	○		△	○		○		○		○
○			柔道整復術適応の臨床的判定	柔道整復術の適応疾患に対する臨床的判定を学ぶ。	1後	15	1	○			○		○		○		

○			臨床柔道整復学・特論Ⅰ	軟部組織損傷に対するより高度な専門知識や臨床の実際を学ぶ。	3後	30	2	○			○							
○			臨床柔道整復学・特論Ⅱ	上肢骨折・脱臼に対するより高度な専門知識や臨床の実際を学ぶ。	3後	30	2	○			○							
○			臨床柔道整復学・特論Ⅲ	下肢骨折・脱臼に対するより高度な専門知識や臨床の実際を学ぶ。	3後	30	2	○			○							
○			固定法Ⅰ	包帯法の巻き方を身に付け、基本を正しく学ぶ。	1前	30	1				○	○						
○			固定法Ⅱ	包帯法の基本～応用まで正しく学ぶ。	1後	30	1				○	○						
○			固定法Ⅲ	固定具の作成および固定具を用いて固定技術を学ぶ。	2前	30	1				○	○						
○			固定法Ⅳ	固定材料を用い応用的固定技術を学ぶ。	2後	30	1				○	○						
○			柔道整復実践実技Ⅰ（臨床前施術試験含む）	柔道整復術を理解し、基礎的実技を学ぶ。	1後	30	1				○	○						
○			柔道整復実践実技Ⅱ	整復・固定を行うための、基礎技術を学ぶ。	2前	30	1				○	○						
○			柔道整復実践実技Ⅲ	脱臼・骨折の整復法・固定法を実践するための、実技を学ぶ。	2後	30	1				○	○						
○			柔道整復実技Ⅰ	上肢の骨折について整復法・固定法の実技を学ぶ。	2前	30	1				○	○						
○			柔道整復実技Ⅱ	下肢の骨折について整復法・固定法の実技を学ぶ。	2前	30	1				○	○						

○			柔道整復実技Ⅲ	上肢・下肢・体幹の軟部組織損傷について固定法の実技を学ぶ。	2 前	30	1			○	○		○		
○			柔道整復実技Ⅳ	上肢の脱臼について整復法・固定法の実技を学ぶ。	2 後	30	1			○	○		○		
○			柔道整復実技Ⅴ	下肢の脱臼について整復法・固定法の実技を学ぶ。	2 後	30	1			○	○		○		
○			柔道整復実技Ⅵ	上肢・下肢・体幹の脱臼について固定法の実技を学ぶ。	2 後	30	1			○	○		○		
○			柔道整復実技Ⅶ	上肢・下肢・体幹の骨折・脱臼について整復法・固定法の技術を学ぶ。	3 前	30	1			○	○		○		
○			柔道整復実技Ⅷ	柔道整復学の集大成として、上肢疾患の臨床実技を学ぶ	3 後	30	1			○	○		○		
○			柔道整復実技Ⅸ	柔道整復学の集大成として、下肢・体幹疾患の臨床実技を学ぶ	3 後	30	1			○	○		○		
○			高齢者及び競技者の外傷予防技術	高齢者及び競技者の外傷予防技術を実習を通して学ぶ。	3 前	30	1	△		○	○		○		
○			臨床実習	柔道整復学の集大成として、柔道整復術の実際を学ぶ。	1 後 から 3 前	180	4	○		○	○	○	○	○	○
○			救急処置法Ⅰ	救急時に必要な救急処置を冷静沈着に行えるよう、正しい知識と技術を習得する。	1 前	30	1	△		○	○			○	
○			救急処置法Ⅱ	事故を防止し、緊急時に必要な処置ができるように、正しい救急法の知識と技術を身に付ける。	1 後	30	1	△		○	○			○	
○			スポーツ医学概論Ⅰ	スポーツ選手の外傷・障害の発生機序や対処の予防法を学ぶ。	1 後	30	2	○			○			○	
○			スポーツ医学概論Ⅱ	発育発達期、中高年、女性、また障害者とスポーツの関係を医学的に学ぶ。	2 前	30	2	○			○			○	

